

授業概要

本講義ではイスラム教の成立した 7 世紀から現代に至るまでのイスラム諸王朝の興亡と統治体制、さらには文化や思想などを網羅的に学ぶことを通じて、世界各地に拡大したイスラム社会の特徴について理解するための基礎的知見の獲得を目指す。近年では身近なものになりつつあるイスラム社会の歴史全体を大まかに把握することで、イスラムという宗教が社会的に大きな影響力を有した各地域における社会規範や文化的特徴がどのようなものであるのかについて理解を深める。そのため、講義においてはイスラム勃興期の中東から北アフリカ・イベリア半島、さらには南アジアや中央アジアなど世界の様々な地域におけるイスラム社会の歴史・思想・文化について取り上げて講義を行う。

授業計画

第 1 回	イントロダクション、イスラムの勃興と正統カリフ時代
第 2 回	ウマイヤ朝による支配の拡大とアッバース朝の繁栄
第 3 回	イスラム思想の成熟とイスラム法学・文化の発展
第 4 回	北アフリカ・イベリア半島におけるイスラム諸王朝の興亡
第 5 回	イラン系・トルコ系諸民族の台頭
第 6 回	モンゴル帝国による世界帝国の成立とイスラム社会
第 7 回	ティームール朝の発展とイスラム神秘主義思想
第 8 回	オスマン朝の成立と拡大：統治体制と対外関係
第 9 回	サファヴィー朝とシーア派イスラム思想の発展
第 10 回	ムガル朝によるインド統治と社会的影響
第 11 回	ヨーロッパによる植民地支配の衝撃とイスラム社会の動揺
第 12 回	イスラム改革思想の広域的展開と社会改革運動
第 13 回	第一次世界大戦と戦間期：オスマン朝崩壊とパレスチナ問題、ヒラーファト運動
第 14 回	第二次世界大戦とイスラム世界の大変動：中東戦争とアラブ主義、印パ戦争
第 15 回	現代史のなかのイスラム世界：イラン革命から「アラブの春」
第 16 回	筆記試験

到達目標

- ① イスラム教の成立期から現代に到るまでのイスラム史全体の大まかな流れを把握する。
- ② 各時代・地域におけるイスラムの政治・思想・文化の特色を理解する。
- ③ イスラム関係史を学ぶことでイスラム社会を身近に捉え国際的視野に基づいた理解力を養う。

履修上の注意

高校時代に世界史を履修していた人は教科書の該当部分を確認しておくとう理解が容易になります。ただ、世界史を履修していなくても一から理解できるような講義を行いますので、前提となる知識は必要ありません。

予習復習

予習は必要ありませんが、授業中に毎回配布するプリントの内容を復習し、基礎的事項を確認・復習してください。

評価方法

授業期間中の小テスト・リアクションペーパーの提出など参加点（40%）、および学年末筆記試験（60%）にて評価します。

テキスト

教科書は使用せず、毎回プリントを配布します。授業中に取り上げた事項についてさらに深く学ぶために必要な書籍などは適宜授業中に紹介します。